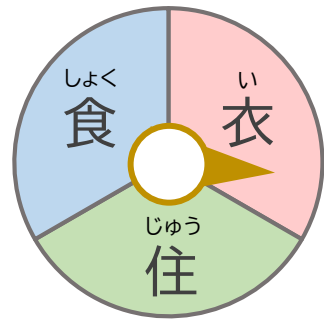


すみだの昔の道具図鑑(1)



「アイロンのうつり変わり」

—衣類の変化と道具の変化—

明治時代から大正時代にかけて、日本の生活は西洋の国々の影響を強く受けて変わっていき
ました。特に、和服(着物)と洋服とでは、手入れ(洗い方・しまい方など)に必要な道具も異なり
ます。ここでは、服のシワをのばすために使われた様々な「アイロン」を紹介します。

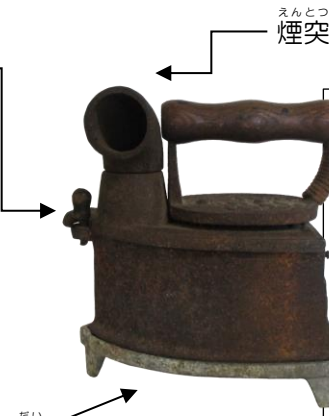
器の内側は、炭を入れた時に空気が
通りやすいようになっています。



▲鏝
1000年以上前～
明治時代頃

火のし【のし】
炭の熱を利用した道具。金属の器に火のついた炭を入れ、熱くなった器の底を使ってシワをのばします。細かい部分や折り目には鏝を使いました。持ち手は、熱くならないように木で作られています。千年以上前から、よく似た道具が使われていたようです。

火のし【のし】



▲炭火アイロンを台からおろして
鍵を開けた様子

現在のアイロンと形は似ていますが、本体は金属、持ち手は木でできています。
鍵をあけて中に火のついた炭を入れ、その熱と本体の重みでシワをのばします。空気の
流れをつくるための煙突や穴があります。熱い状態で置くので、台がセツ
トになっています。

炭火アイロン【すみびあいろん】



とびら
扉

明治時代～
昭和時代はじめ頃

湯のし【ゆのし】
炭火アイロンによく似ていますが、お湯の蒸気でシワをのばす道具です。中のタンクに水を入れ、扉から火のついた炭を入れて水を温めます。扉の横にある細長い窓は、タンクに入っている水の量を見るためのものです。

湯のし【ゆのし】



昭和時代～

▲湯のしを開けた状態

明治時代～大正時代

電気の熱でシワをのばす道具。ダイヤルを回して温度を調節することができるようになりました。スチームアイロンが広まる昭和時代後半までは、布をあてたり、霧吹きを使ったりする必要がありました。

ダイヤルつき 電気アイロン 【でんきあいろん】



ダイヤル



チャレンジワーク

自分だけの「昔の図鑑」をつくろう!

()年()組

名前()



◆道具の名前 ()

◆使い方 ()の熱でシワをのばす

はっけんメモ

Red dashed-line box for notes.



◆道具の名前 ()

◆使い方 重みと()の熱でシワをのばす

はっけんメモ

Red dashed-line box for notes.



◆道具の名前 ()

◆使い方 ()の蒸気でシワをのばす

はっけんメモ

Red dashed-line box for notes.



◆道具の名前 ()

◆使い方 ()の熱でシワをのばす

はっけんメモ

Red dashed-line box for notes.